

新宮山彦ぐるーぷ第1860回

深仙宿小屋・第一次増床工事

◇実施日；平成28年03月21日(月・祝) 快晴
◇参加者；青木宏充、塩川真武(関電エレハウスで車中泊)

山口泰弘、梶野照雄。

4名

3月16日に単独で増床部を荷揚げしようとしたが、あまりの積雪の多さで途中断念。窓を2箇所設置する計画の松本さんは、21日に予定していた窓の荷揚げも、都合で延期となったが、青木さんが行ってくれるというので、荷揚げ、組み立てを決定した。19日に山口さん参加の連絡があり、合計3名となったので1梱包にしていた床材を2梱包に包み直した。



16日の様子



朝、関電エレハウスで



太尾登山口で

20日の夕方、青木さんから「塩川君も参加するので、朝食と昼食を用意してほしい」と連絡があり、急遽、近所のスーパーまで買い出しに行く。

午前7時に関電エレハウスに到着、前夜車中泊の青木、塩川両氏の出迎えを受ける。買ってきたサンドイッチやクロワッサンと、朝淹れてきたコーヒーで朝食をとってもらう。

7時30分、山口さんが到着、初対面の塩川君と挨拶したのち、青木、梶野車に分乗し、2台で太尾登山口に向かう。

登山口までの林道には、先日あった積雪もなく、すでに落石除去作業が行われているようで、前回置いてあった小型重機の置き場所が変わっていた。

午前8時半過ぎに登山口を出発、山口、塩川両氏は、床材を、青木さんは自作の標識を、私は工具とアルミアングルを担ぎ、積雪の状態を心配しながら歩を進めた。

尾根筋まで登ると、強い西風が吹いて、気温も低く、指先が痛くなり手袋を2重にする。おそらく氷点下だったと思う。落葉した木々に3cm程の霧氷がビッシリ付いていて、桜満開と見まがうばかり。澄み切った青空に全山霧氷の美しい景色にしばし見とれた。



登山口出発



花が咲いたような霧氷



釈迦ヶ岳と霧氷(塩川)



千丈平で鹿が食事中



深仙宿小屋に到着



灌頂堂でお参り(塩川)

旧道分岐、古田の森、千丈平で休憩して、ほぼ標準タイムで深仙宿小屋に着いた。灌頂堂の扉を開け簡略般若心経でお参りする。しばらく休憩した後、青木さんは標識をもって南へ、他の3名で増床部の組み立てを始める。一時間もたないうちに青木さんが戻ってくる。12時を少し過ぎていたのでお昼ご飯にする。少し風はあるが、小屋の中より屋外の日当たりの方が暖かいようなので、小屋前の倒木に腰を下ろしてそれぞれ食事をとった。



床材の梱包を解く アングルの組み立て ほぼ組みあがった脚部(塩川)



床材のネジ止め



完成した増床部



マットを敷く(塩川)

午後からは、脚部のボルト締め付け、床材のネジ止め、高さ調整のため足の切断を済ませ、増床部は完成した。確認のため塩川君に横になってもらった。増床部と既存の床を合わせると175cm×150cmになり、身長が170cmまでの人なら、2人(詰めれば3人)が横になれる。次回はこの北側に195cm×60cm増やす予定である。小屋の梁上に2×24cmの板があり、長さも十分なのでこれを床材として使用するつもりになっている。



モデルは塩川君



相変わらず煙がすごい



小屋裏の材木



青木さんの標識



五角仙と思われる場所



四天石の下部に窟(山口)

作業終了、後片付けと掃除をして小屋を出る。小屋裏にある材木を確認してみると、6×3cm、長さが2.3mの荒材が20本以上あり、1m程の物も数本ある。窓の設置の際に使えるのではないかと話し合った。

青木さんが標識を見てほしいというので、ザックを置いて南へ向かう。聖天の森と五角仙と思われる場所に標識が設置されていた。どちらも大変眺望に恵まれた場所で、大日岳ほど離れていないので、都津門であろう穴や四天石の下部にある窟もはっきりと確認できた。

小屋に戻り、午後二時過ぎに深仙宿を離れる。小屋内の気温は4℃だった。

関電エレハウスに戻り、青木さんが沸かしてくれたお湯でコーヒーを頂き、各自、帰路についた。

今回は、最初2人での予定だったが、山口さんが参加して下さって、おまけに前日も南奥駈道の巡視に加わった塩川君が車中泊で参加して下さり、大変心強かった。

先日の積雪もほんの数か所残っているだけで、歩きやすかった事もあり、想定した時間で作業を終えることができた。参加者の皆様にお礼申し上げます。



荷揚げ途中で



深仙宿出発

※写真説明下の括弧内は撮影者名。

行動タイム

07:00 関電エレハウス 07:45→08:20 太尾登山口 08:33→10:20 千丈平→11:00 深仙宿・作業 13:00→聖天の森・五角仙→14:10 深仙宿→太尾登山口 16:40→17:10 関電エレハウス

(記 梶野)